

(単位：千円)

決算書 (P336～P337)	10 款 4 項 1 目 幼稚園費	所管課等	教育総務課
事業名	幼稚園施設管理費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
12,232	7,835				3,692 (使用料)	4,143
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
3,649	748			235	513	

【目的】

適切な施設の維持管理を行い、園児が安全で安心して幼稚園生活を送ることができるよう環境を維持する。

平成 30 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○実施内容、これまでの経過等

《平成 30 年度当初予算に計上したもの》

項目		平成 29 年度	平成 30 年度	比較	内容
需用費	燃料費	3	0	△3	除雪機用燃料
	光熱水費	2,116	1,761	△355	電気、ガス、水道料金
	修繕料	687	466	△221	営繕修繕、備品修繕
役務費		58	253	195	暖房ボイラー始業前点検ほか
委託料		2,771	2,687	△84	施設管理委託
使用料及び 賃借料	使用料	391	295	△96	下水道使用料
原材料費		29	23	△6	補修用材料
合計		6,055	5,485	△570	

《平成 30 年 12 月補正予算により実施事業としたもの》(総事業費：6,000)

項目	執行額	幼稚園名	主な内容
空調設備設置工事(前払金)	2,350	高田幼稚園	空調設備設置 (GHP方式)

決算書 (P 336～P 337)	10 款 4 項 1 目 幼稚園費	所管課等	教育総務課
事業名	幼稚園施設管理費		

《令和元年度繰越事業》 3,650 (総事業費：6,000)

・ブロック塀・冷房設備対応臨時特例交付金に係る繰越し

国の補正予算によるブロック塀・冷房設備対応臨時特例交付金の内示を受け、平成 30 年 12 月の補正予算で対応した空調設備設置工事については、平成 31 年 2 月 15 日までに工事請負契約の締結を完了したが、平成 30 年度内の完了が困難なことから令和元年度に繰り越した。

幼稚園名	工事費	主な内容
高田幼稚園	3,650	空調設備設置 (GHP方式)

【事業の成果】

幼稚園施設の整備・維持管理を適切に実施し、園児の安全性及び快適性を維持した。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・園児の安全・安心のため、施設設備の維持管理委託や遊具の定期点検を実施するなど、教育環境の整備に努める。
- ・国の補正予算によるブロック塀・冷房設備対応臨時特例交付金の内示を受け、平成 30 年 12 月の補正予算で対応した空調設備設置工事については、令和元年度繰越事業として実施する。

【執行残額について】

○入札差金	235
・施設管理委託料	
○その他	513
・燃料費	4
・光熱水費	128
・修繕料	271
・下水道使用料	98
・諸資材費	12

(単位：千円)

決算書 (P338～P339)	10款4項1目 幼稚園費	所管課等	教育総務課
事業名	幼稚園管理事務費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
9,374	6,783					6,783
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	2,591			36	2,555	

【目的】

幼稚園運営に必要な消耗品や事務用機器、物品等を整備し、幼稚園教育を円滑に実施する。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○実施内容、これまでの経過等

非常勤職員の任用、事務用機器等の借上げ、物品購入ほか

《高田幼稚園の経費内訳》

項目	平成29年度	平成30年度	比較	内容	
報酬	4,895	4,323	△572	非常勤一般職報酬	
共済費	564	765	201	社会保険料、雇用保険料ほか	
旅費	468	307	△161	費用弁償、普通旅費	
需用費	174	120	△54	管理用消耗品費	
役務費	通信運搬費	206	205	△1	電話料、郵便料
	手数料	119	98	△21	調理員検便手数料ほか
使用料及び賃借料	借上料	411	551	140	事務用機器借上料ほか
	使用料	259	251	△8	教育ネットワーク使用料ほか
備品購入費	153	125	△28	幼児用机購入費	
負担金補助及び交付金	34	38	4	国公立幼稚園協会負担金ほか	
合計	7,283	6,783	△500		

【事業の成果】

必要な物品の購入、機器の借上げ等により円滑な幼稚園運営に寄与した。

決算書 (P 338～P 339)	10 款 4 項 1 目 幼稚園費	所管課等	教育総務課
事業名	幼稚園管理事務費		

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

事務機器のリース対応などを含め、計画的な備品整備を継続して実施していく。

【執行残額について】

- 入札差金 36
 - ・ 幼児教育、事務管理用備品購入費
- その他 2,555
 - ・ 報酬 1,888
 - ・ 共済費 251
 - ・ 旅費 219
 - ・ 消耗品費 57
 - ・ 手数料 77
 - ・ 諸会議出席負担金ほか 63

(単位：千円)

決算書 (P 338～P 339)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	青少年健全育成センター運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
16,570	16,129					16,129
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	441				441	

【目的】

- ・街頭指導活動や環境浄化活動等を通して青少年非行の未然防止を図るとともに、相談活動等を通して若者の自立支援策を講じることで青少年の健全な育成を推進する。
- ・「地域の子どもは地域で育てる」ことを目指して、地域の教育力の向上を図る活動を支援する。

平成 30 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

街頭指導等 6,410

○平成 30 年度目標

- ・青少年健全育成委員の資質向上を図るための研修会を 4 回実施する。
- ・街頭指導や青色回転灯積載車(青パト)による巡回指導を通して、大型商業施設・コンビニエンスストア等での万引き防止、遊技施設への出入り防止、駅周辺での喫煙防止・交通マナー遵守等の取組を関係機関と連携して実施する。
- ・子ども・若者育成支援活動として若者応援セミナーのほか、若者支援フェスタ(講演会)の開催と、若者の居場所づくりを進める。

○実施内容、これまでの経過等

- ・若者育成支援：15 歳以降の若者相談窓口(若者ほっとライン)の周知に努め、相談支援を充実するとともに、若者支援として「若者の居場所」(随時)・「上越市親の会」(年 5 回)・「若者応援セミナー」(年 5 回)、「若者育成支援フォーラム」を実施した。
- ・街頭指導活動：青少年健全育成委員が、高田・直江津地区市街地や駅周辺、富岡地区の商業地において 219 回、延べ 854 人で街頭指導を実施し、注意・指導の声掛けを 494 回行った。また、小中学校の協力を得て P T A 一日街頭指導を 8 月と 9 月に実施した。7 月と 10 月には、少年サポートセンターと連携し、警察ボランティアの協力を得て、南高田駅周辺と高田駅周辺で特別街頭指導を実施した。
- ・環境浄化活動：各地域青少年育成会議と連携し、青少年を取り巻く社会環境実態調査(県事業：有害図書類自動販売機設置場所、酒類・たばこ自動販売機の設置状況、コンビニエンスストア、有害 DVD 等販売書店、カラオケボックス・インターネットカフェの調査等)を 7 月に行った。
- ・立入調査活動：有害図書類自動販売機設置場所の立入調査を 9 月下旬に実施し、未成年立入禁止標示や自動販売機周辺における環境整備の徹底を指導した。

決算書 (P 338～P 339)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	青少年健全育成センター運営費		

○目標達成状況

- ・若者相談窓口における相談者は 18 人（延べ対応件数 110 回）であった。「若者の居場所」の利用者は 1 人、「上越市親の会」の出席者は 92 人、「若者応援セミナー」の参加者は 16 人であった。
- ・小中学生等に対するゲームセンターでの注意・指導及び中高校生の自転車交通ルール遵守等への指導を強化し、非行防止、交通事故防止に取り組んだ。
- ・有害図書類自動販売機を設置している土地や建物の所有者に対し、契約更新しないよう要請を行った。現在、市内には 3 か所 9 台が設置されている。

地域青少年育成会議活動支援 9,719

○平成 30 年度目標

22 の地域青少年育成会議の活動を支援することにより、学校・家庭・地域が一体となった地域ぐるみの青少年育成活動を推進する。

○実施内容、これまでの経過等

- ・地域青少年育成会議協議会への交付金の交付及び各地域青少年育成会議との意見交換などを通じ、青少年の健全育成に向けた地域ごとの活動を支援した。
- ・地域の課題について、中学生を中心とした青少年と地域の大人とが話し合う「地域青少年まちづくりワークショップ」を開催した。

○目標達成状況

地域青少年育成会議が実施する会議、事業等の参加者数は 174,586 人となり、前年度から約 6 千人余り減少したものの、「まちづくりワークショップ」の継続実施により、各地域がそれぞれ地元の子どもたちと地域独自の課題への取組を行ったことから、青少年育成活動がより一層推進された。

【事業の成果】

- ・若者相談窓口の周知が徐々に進み、相談対応件数が大幅に増えた。ほとんどの相談が保護者等からのもので、本人からの直接の相談は 1 件であった。
- ・継続的な非行防止に向けた街頭指導活動等の取組や、有害図書類自動販売機への立入調査及び撤去要請により青少年の健全育成の環境整備を推進できた。
- ・地域青少年育成会議の活動を支援することにより、学校・家庭・地域が一体となった「地域の子どもは地域で育てる」機運が高まり、地域ぐるみの青少年育成活動を推進することができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・若者相談窓口の周知を更に進め、具体的支援の充実に結び付けていく必要がある。
- ・支援事業の効果を検証し、見直しや改善などで事業の精選と集中を図っていく必要がある。
- ・今後も引き続きゲームセンター等での小中学生への注意・指導や、高校生の自転車マナー向上に向け、関係機関と連携しながら啓発活動を進めていく必要がある。
- ・有害図書類自動販売機については、立入調査での指導を徹底し、地域の関係者と連携を図りながら土地所有者に対して撤去要請を行うなど、環境浄化への取組を継続していく必要がある。
- ・各地域青少年育成会議の認知度がいまだに低いことから、広報紙やホームページ等による認知度向上のための周知活動を進め、活動が円滑に行えるようにする必要がある。

決算書 (P 338～P 339)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	青少年健全育成センター運営費		

【執行残額について】

○その他 441

- ・報酬、旅費 380 (天候不良に伴う街頭指導の中止等による)
- ・消耗品費、電信電話料、使用料及び賃借料ほか 61

(単位：千円)

決算書 (P338～P341)	10款5項1目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	成人式運営事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
4,276	4,050					4,050
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	226			20	206	

【目的】

成人式を開催することで、新成人としての自覚と自立を促すとともに、生まれ育った上越市への思いを深め、豊かな人間性と社会性を培う。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○平成30年度目標

- ・新成人が、恩師や旧友との再会を通して、自らが生まれ育った郷土への思いを深めるとともに、成人したことの自覚と自立を促す機会とする。
- ・出席率：71.9%以上

○実施内容、これまでの経過等

(平成30年成人式)

対象者 平成9年4月2日～平成10年4月1日生まれの人(2,083人)

開催日時 平成30年4月7日(土)午前11時から午後0時30分まで

出席者 1,478人(出席率：71.0%)

会場 リージョンプラザ上越 インドアスタジアム

内容

①オープニング：上越教育大学吹奏楽団による演奏

②式典

③成人の集い(成人の集い実行委員会が企画・運営)

テーマを「躍進～未来へ、感謝とともに～」とし、今までの自分を振り返り、改めて将来の目標について考える機会とした。また、20年間を振り返るスライドショーと恩師からのお祝いのビデオメッセージを流した。

④記念品：成人の集い実行委員会がデザインしたボールペン

(出席者の推移)

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度
対象者数	2,140人	2,036人	2,083人
出席者数	1,484人	1,502人	1,478人
出席率	69.3%	73.8%	71.0%

決算書 (P338～P341)	10款5項1目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	成人式運営事業		

〈成人式に関するアンケート結果〉

※成人式案内状に併記した質問事項に回答してもらい、受付時に回収 (単位：%)

開催月	回答割合	集い内容	回答割合	式典後の予定	回答割合
4月	53.0	不要	29.2	同窓会	25.1
5月	8.5	楽しめるもの	1.4	特になし	6.7
その他	8.8	ゲストを呼ぶ	0.8	飲み会	4.7
無回答	29.7	その他	4.1	その他	9.0
		無回答	64.5	無回答	54.5
合計	100.0	合計	100.0	合計	100.0



成人の集いの様子



会場の様子

○目標達成状況

出席率は71.0%であり、目標を達成することはできなかったが、市長からの激励や新成人代表スピーチ、成人の集いの企画等を通じて成人としての自覚と自立を促す機会にすることができた。

【事業の成果】

新成人が恩師や旧友との再会を通して、新成人としての自覚と自立を促す機会とするとともに、自らが生まれ育った上越市への思いを深めることができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・より多くの新成人からの出席を促すため、引き続き広報上越への掲載や報道機関への情報提供、商工会議所会報誌を通じた市内事業所への参加配慮依頼を行うとともに、市外転出者への周知方法を検討する。
- ・出席できなかった新成人への対応として、開催後にインターネットを利用して動画を配信するなどの対応を検討する。

【執行残額について】

- 入札差金 20
 - ・委託料
- その他 206
 - ・報償費、旅費、消耗品費、郵便料

(単位：千円)

決算書 (P340～P341)	10款5項1目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	社会同和教育活動事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
3,630	3,339				4 (諸収入)	3,335
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	291				291	

【目的】

第4次人権総合計画や総合教育プランに基づき、人権・同和教育の推進を図るため、白山会館事業と市民啓発事業を実施し、基本的人権が真に保障される社会の実現を図る。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

白山会館事業 555

○平成30年度目標

全ての市立小中学校(72校)が現地学習会を実施する。

○実施内容、これまでの経過等

年間を通して158団体(市内小中学校74校、その他の市内学校7校、市外学校61校、市内団体6団体、市外団体10団体)からの要請を受け、差別の現実を学ぶ人権・同和教育の現地学習会を白山会館で64回開催し、2,228人が参加した。

○目標達成状況

全ての市立小中学校(72校)が実施し、目標を達成した。

小中学生学習会 904

○平成30年度目標

学校及び地域と連携し、対象児童及び生徒が継続して参加できるようにする。

○実施内容、これまでの経過等

年間を通して137回実施した。(小学生対象実施回数71回・延べ参加人数480人、中学生対象実施回数66回、延べ参加人数200人)

○目標達成状況

地域の協力を得ながら、学校とともに学習会への参加の声かけをすることにより、継続して参加してもらうことができた。

決算書 (P340～P341)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	社会同和教育活動事業		

白山会館管理運営 1,299

○実施内容、これまでの経過等

現地学習会の実施による利用者が増加し、昨年度より 162 人多い 3,846 人であった。

区分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
利用者数	3,695 人	3,684 人	3,846 人

市民啓発事業 581

○平成 30 年度目標

市内の 17 小学校区で人権を考える講話会を実施する。

○実施内容、これまでの経過等

全 50 小学校区を 3 年で一巡する実施計画どおり、17 小学校区において P T A や町内会など地域住民を対象に人権を考える講話会を開催し、延べ 585 人の参加があった。また、高田農業高校など 3 校から講師派遣要請を受け、講話会を開催した。

○目標達成状況

人権を考える講話会を計画どおり 17 小学校区（≒50 校/3 年計画）で開催した。

【事業の成果】

- ・現地学習会や人権を考える講話会後のアンケートでは、「正しい知識を子どもたちに伝えていきたい」「繰り返し学ぶことで、自分自身の人権感覚を磨くことができた」など、人権について深く考えた感想が寄せられ、人権に関する意識を高めることができた。
- ・人権を考える講話会において、身近に起きている人権問題を学習内容に取り上げることで、参加者自身のこととして人権問題を考える機会となり、人権感覚を身に付けることができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・現地学習会や人権を考える講話会の開催により、同和問題についての正しい理解と認識が深まっているものの、いまだに差別がなくならない現状があることから、今後も継続して学習の機会を提供していく必要がある。
- ・人権が尊重される社会づくりを目指すため、社会情勢の動きを捉えた人権に関する学習の充実や広報・啓発活動に努める必要がある。

【執行残額について】

○その他 291

- ・報酬、報償費、旅費ほか（会議開催実績等による）

(単位：千円)

決算書 (P340～P341)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	青少年教育活動事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
10,316	9,133		2,236		3,610 (財産収入 寄附 徴収)	3,287
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	1,183			49	1,134	

【目的】

青少年に対して様々な体験活動等を提供することにより、郷土愛の醸成や心の豊かさを育む。また、学校、家庭及び地域がそれぞれの役割と責任を自覚し、相互の連携及び協働を推進するための様々な仕組みづくりを進め、青少年の健全育成と地域の教育力の向上を図る。

平成 30 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

学校支援地域本部事業 3,365

○平成 30 年度目標

2 回の研修会と実践発表会、交流会の開催により、学校と地域との調整役となる地域コーディネーターの資質向上に取り組み、各地域青少年育成会議の活動内容を充実させる。

○実施内容、これまでの経過等

- ・学校と地域との調整役を担う地域コーディネーター155人を配置し、学校と地域との連携・協働のための調整を行うなど、学校・家庭・地域が一体となった地域ぐるみの教育活動の推進に努めた。また、地域コーディネーターを社会教育法に位置付けられた地域学校協働活動推進員として委嘱するため、設置要綱の改正を行った。
- ・地域コーディネーターの資質向上のため、新任者研修会、実務研修会、交流会等を開催した。
- ・平成 30 年からは、中学生だけでなく小学生や高校生等の地域の青少年全てを対象とした活動を目指し、中学生まちづくりワークショップを地域青少年まちづくりワークショップと改めた。また、参加者の負担軽減のために全体で集まる機会を年 3 回から全体発表の 1 回のみとした。全体発表会当日は、小・中学生 91 人と育成会議参加者 58 人が発表を行い、142 人の一般参加者が観覧した。

○目標達成状況

地域青少年まちづくりワークショップの開催や地域コーディネーターの配置及び資質向上に向けた各種研修会・交流会の開催、地域学校協働活動推進員の委嘱に向けた設置要綱改正等により、各地域青少年育成会議の活動内容の充実を図ることができた。

決算書 (P340～P341)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	青少年教育活動事業		

謙信KIDSプロジェクト 3,611

○平成 30 年度目標

- ・募集定員総数に対する申込率 100%
- ・参加者の自己目標達成度 90%以上

○実施内容、これまでの経過等

小学生を対象に上越市の豊富な地域資源や人材を活用した講座を実施し、学ぶ意欲と郷土を愛する心の育成を図るとともに、異学年・異学校の子どもたちの仲間づくりを進めた。

<実施講座一覧>

講座名	活動内容	主な活動場所	対象学年	募集定員	申込人数	申込達成状況
しぜん(3コース)	海、川の生き物観察、森林散策	地球環境学校	1～3年	60	107	○
うみ(2コース)	水族博物館内探検、クイズ作成	水族博物館	1～3年	40	222	○
でんしゃ(2コース)	駅構内探検、電車乗車体験	上越妙高駅ほか	1～3年	40	63	○
しょく	畑の観察、収穫、調理実習	浦川原区ほか	1～3年	20	23	○
ほし(2コース)	プラネタリウム学習、天文工作	清里区	1～3年	40	66	○
ものづくり (3コース)	木、竹、ヒモ、ワラを使った工作実習	市民プラザ	1～3年	60	109	○
ゆき	雪国の遊び、暮らし体験、雪山散策	浦川原区ほか	1～3年	20	14	
そば	種まき、収穫、そば打ち体験	牧区	1～3年	20	32	○
縄文	土器・石器作り、調理体験	中郷区	3～6年	25	34	○
海	地引網、干物作り体験	柿崎区ほか	4～6年	20	38	○
交通	電車乗車体験、軽便資料館見学	直江津駅ほか	4～6年	25	17	
食	上越の発酵食品の学習	市民プラザ	4～6年	20	26	○
星	望遠鏡の使い方、天体観測	清里区	4～6年	20	41	○
科学	科学実験、顕微鏡を使った観察	上越科学館	4～6年	25	94	○
チャレンジ	カヌー体験、パラグライダー体験	頸城区ほか	4～6年	20	52	○
世界の文化	世界各国の風習や食文化の学習	市民プラザ	4～6年	25	42	○
義の心	春日山城跡探検、川中島見学	春日山城跡ほか	4～6年	25	5	
アウトドア	カヌー作成、キャンプ泊体験	頸城区ほか	4～6年	20	61	○
発明 (3コース)	様々な素材の加工による工作体験	上越科学館	1～3年 4～6年	72	210	○
全 28 コース	合 計			597	1,256	—

○目標達成状況

- ・募集定員総数 597 人に対する申込人数は 1,256 人であり、申込率 210%で目標を達成した。
- ・参加者アンケートによると自己目標達成度は 98%であり、目標を達成した。

決算書 (P340～P341)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	青少年教育活動事業		



謙信KIDSプロジェクト
「そば」の講座の様子



謙信KIDSプロジェクト
「しよく」の講座の様子

青少年問題協議会 84

○平成30年度目標

重要案件について諮問を受けた場合には、青少年問題協議会を速やかに開催するとともに、青少年健全育成関係機関連絡協議会で情報交換及び子ども・若者の支援の在り方に関する協議を行う。

○実施内容、これまでの経過等

青少年の諸問題については、下部組織である上越市青少年健全育成関係機関連絡協議会を3回開催し、0歳から18歳までの切れ目のない支援の方策や課題の協議のほか、関係行政機関相互の情報交換を行った。

○目標達成状況

平成30年度は重要案件についての諮問がなく未開催であった。なお、総合教育プランに掲げる0歳から18歳までの切れ目のない支援について、上越市青少年健全育成関係機関連絡協議会で3回の話し合いを行い、連携方法についての方向性を確認できた。

各種団体補助金 2,073

○平成30年度目標

- ・市小中学校PTA連絡協議会が行う取組を支援することにより、家庭・学校及び単位PTA相互の連携強化と地域の教育力の向上を図る。また、日本PTA全国研究大会新潟大会第1分科会の開催に向けて必要な支援を行う。
- ・子ども会等が行う地域のリーダー育成に向けた取組を支援することにより、青少年のリーダー養成を円滑に進める。

○実施内容、これまでの経過等

- ・青少年の健全育成に関わる市小中学校PTA連絡協議会に補助金を交付し、各小中学校のPTA活動の活性化を図り、PTA会員の資質向上と青少年の健全育成を推進した。また、当市が会場となった日本PTA全国研究大会新潟大会第1分科会の実行委員会等に補助金及び交付金を交付し、研究大会の開催を支援した。
- ・子どもリーダー育成事業補助金の交付により、子ども会等が行う子どもたちのリーダーシップを高める育成に向けた取組を支援した。

決算書 (P340～P341)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	青少年教育活動事業		

○目標達成状況

市小中学校PTA連絡協議会への補助金交付のほか、子ども会等への子どもリーダー育成事業補助金交付を行うことで、青少年の健全育成活動を推進するとともに、次代を担う人材の育成に寄与することができた。また、日本PTA全国研究大会新潟大会第1分科会実行委員会等への補助金及び交付金の交付により、研究大会が成功裏に開催された。

【事業の成果】

- ・地域青少年まちづくりワークショップの開催を通して、中学生を中心とした青少年が地域の大人と関わりながら地域を深く知ることにより、地域への愛着を高めることができた。
- ・地域コーディネーターが学校と地域とのつなぎ役となり、学校と家庭、地域の連携を進めることで、学校活動を支援するだけでなく、地域活動への子どもたちの参画も促進することができた。また、地域学校協働活動推進員として委嘱できるようにすることで、法律に位置付けられた存在として活動できるようになった。
- ・謙信KIDSプロジェクトは、学ぶ意欲だけでなく、自らが暮らす上越市への興味・関心を高めるきっかけづくりとなった。
- ・関係団体への補助金の交付を通じて、団体の活動活性化と青少年の健全育成活動が推進され、社会の教育力の向上を図ることができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・学校と地域が連携・協働して活動を行うためには、地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）の果たす役割が大きいことから、引き続き推進員と協議しながら各種研修を実施する必要がある。
- ・少子化等の社会情勢から子ども会が、将来の地域のリーダーを育成していく取組を行うことが難しくなっている。子どもリーダー育成事業補助金について、令和元年度からは地域の実情に合わせた形で見直し、新たに補助対象団体に地域青少年育成会議や文化活動団体を追加し、補助対象を拡充するとともに、一層の利用促進を図る必要がある。
- ・謙信KIDSプロジェクトの定員に満たない講座については、その要因を分析し、参加者が興味や関心を抱き、参加したくなる活動内容や講座名称に見直す必要がある。

【執行残額について】

○入札差金 49

- ・印刷製本費、委託料

○その他 1,134

- ・報酬、費用弁償 86 (青少年問題協議会が開催されなかったこと等による)
- ・報償費、消耗品費、保険料ほか 755 (学校支援地域本部事業及び謙信KIDSプロジェクトの実施実績による)
- ・負担金補助及び交付金 293 (子どもリーダー育成事業補助金の交付実績による)

(単位：千円)

決算書 (P340～P341)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	社会教育指導員設置費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
10,347	10,327					10,327
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	20				20	

【目的】

青少年教育や社会同和教育、公民館事業などの社会教育事業に携わる活動団体や公民館主事、職員への指導や助言、学習相談、団体育成等を行い、社会教育の推進を図る。

平成 30 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○実施内容、これまでの経過等

- ・設置人数 5人(社会教育事業担当3人、社会同和教育事業担当2人)
- ・勤務形態 非常勤一般職(週29時間10分の勤務)
- ・内容 社会教育事業担当：青少年教育活動事業や公民館事業における運営方法の指導・助言、運営補助等
社会同和教育事業担当：人権を考える講話会等の市民啓発活動、白山会館現地学習会の運営、依頼者との連絡調整

【事業の成果】

- ・謙信KIDSプロジェクトでは、社会教育指導員の企画と指導による豊かな地域資源をいかした体験活動を通して、規範意識や他者を思いやる心など豊かな人間性を育む事業を実施することができた。
- ・人権を考える講話会終了後のアンケートでは、「分かりやすい説明で理解できた」「人権問題を身近な問題として捉えることができた」などの感想があり、社会教育指導員の経験に基づいた分かりやすい説明が、同和問題や人権問題への正しい認識や理解を深める一助となっている。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・社会教育指導員の知識、指導力及び専門性をいかしながら、社会教育関係職員の資質向上と効果的・効率的な事業展開を図る必要がある。
- ・同和問題を始めとする様々な人権に関する問題の解決に向けて、社会教育指導員の説明による学習会や講話会を継続して実施することが重要である。

【執行残額について】

○その他 20

- ・共済費、私有車借上料ほか

(単位：千円)

決算書 (P340～P343)	10款5項1目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	社会教育推進費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
6,529	6,499					6,499
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	30				30	

【目的】

社会教育委員による調査・研究や提言などを通して、当市における社会教育を推進する。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

社会教育委員 521

○実施内容、これまでの経過等

社会教育委員・公民館運営審議会委員会議や総合事務所職員・公民館主事との合同会議を開催したほか、社会教育事業の事業評価を行った。

上越地区広域視聴覚教育協議会負担金 5,978

○実施内容、これまでの経過等

視聴覚教育を推進するため、上越地区3市の広域視聴覚教育協議会の一員として運営を司り、学習等に必要の教材や機材の購入と貸出を行うとともに、プロジェクター操作講習会、タブレット講習会などの各種講習会や映写会、大型ポスターの作成支援等を行った。

【事業の成果】

各市の要望を踏まえた講習会や研修会を実施するほか、所有している視聴覚教材や機材の利用促進に向けた広報活動を行うことにより、視聴覚教育の推進に寄与することができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

上越地区3市の市民の学習要望に対応できるよう、引き続き講習内容を検討するとともに、利用登録団体等が利用しやすいサービスへの見直しを行う必要がある。

【執行残額について】

○その他 30

・需用費、費用弁償、諸会議出席負担金ほか(研修会参加者の減等による)

(単位：千円)

決算書 (P 342～P 343)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	生涯学習推進事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
2,709	2,673					2,673
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	36				36	

【目的】

広く市民に学習情報を提供することにより、市民一人一人が自分に合った学習活動や機会を見つけ、学習活動を行いやすい状態にする。

平成 30 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

学習情報提供事業等 2,487

○平成 30 年度目標

- ・様々な分野で活動している団体や指導者の情報収集と情報発信を行い、多様な学習活動を支援する。
- ・団体・サークル、学習指導者登録数：500 件以上

○実施内容、これまでの経過等

- ・市内の生涯学習活動に取り組む団体・サークルや学習指導者の情報を集約して市ホームページに掲載するとともに、公民館等へのチラシの配置や広報上越を活用し、未登録の団体やサークル及び学習指導者の新規登録を呼びかけた。
- ・各部署で実施している職員による出前講座の情報を集約して市ホームページに掲載し、市民に紹介した。

○目標達成状況

登録件数は 461 件(団体・サークル：287 件、学習指導者：174 件)で、目標を達成することはできなかったが、学習情報の提供を行うことで、多様な学習活動の支援を行うことができた。

上越市民芸能祭 186

○平成 30 年度目標

- ・市内参加団体数：105 団体以上

決算書 (P342～P343)	10款5項1目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	生涯学習推進事業		

○実施内容、これまでの経過等

- ・上越市民芸能祭協議会との共催により、部門別に6回の「つどい」を開催した。民謡・民舞のつどいには、姉妹都市である長野県上田市の上田民踊連合会から2団体を招へいするとともに、当市からも上田市の「上田民謡まつり」に参加した。

部門	開催日	参加団体数	入場者数
洋舞	5月26日(土)	6団体	1,400人
民謡・民舞	6月10日(日)	35団体	1,350人
合唱	7月8日(日)	43団体	1,050人
古典芸能	11月4日(日)	15団体	300人
ハワイアン・フラ	11月25日(日)	22団体	850人
よさこい		7団体	450人
合計		128団体	5,400人



上越市民芸能祭 洋舞のつどいの様子



上田民謡まつりの様子

○目標達成状況

参加団体数は128団体となり、目標を達成することができた。

【事業の成果】

- ・学習情報の提供を行うことで、多様な学習活動の支援を行うことができた。
- ・市民芸能祭は、加盟団体で構成する上越市民芸能祭協議会が主体となって企画及び運営を行っており、市民の参画を得られるとともに、芸能を身近なものとして鑑賞できる機会を提供することができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・学習指導者については、高齢化による活動休止などにより登録件数が減少した。市民に対して学習情報の提供を行うためにはより多くの指導者情報が必要となるため、引き続き、各種事業の講師となっている人材への登録の呼びかけのほか、新たな団体や人材の発掘方法を検討する必要がある。
- ・市民芸能祭では、協議会と連携して参加団体数の増加に取り組むとともに、鑑賞から参加に上げる生涯学習活動へのきっかけづくりとして入場者数の増加に努める。

【執行残額について】

○その他 36

- ・通信運搬費、有料道路使用料、私有車借上料ほか

(単位：千円)

決算書 (P342～P343)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	美術展覧会事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
4,807	3,963				621 (手数料)	3,342
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	844	583			261	

【目的】

市民に美術・芸術活動の成果を発表する場や鑑賞の機会を提供し、美術・芸術文化の振興を図る。

平成 30 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

新潟県美術展覧会上越展 633

○平成 30 年度目標

入場者数：1,800 人以上

○実施内容、これまでの経過等

歴史と伝統を持つ県内最大の公募展の巡回展を開催し、市民が身近に芸術や文化に触れることのできる機会を提供した。

会期 平成 30 年 6 月 6 日(水)～6 月 10 日(日) 5 日間

会場 上越市教育プラザ体育館

○目標達成状況

平成 29 年度の目標達成を受けて高めの目標を設定したが、入場者数は 1,710 人とどまり、目標は達成できなかったものの、優れた芸術作品に触れる機会を提供できた。

区分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
入場者数	1,693 人	1,723 人	1,710 人



県展(開場式)の様子



県展(作品鑑賞会)の様子

決算書 (P 342～P 343)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	美術展覧会事業		

上越市美術展覧会 3,330

○平成 30 年度目標

- ・出品者数：300 人以上

○実施内容、これまでの経過等

第 48 回上越市美術展覧会

- ・会 期 平成 30 年 9 月 30 日 (日) ～10 月 8 日 (月・祝) 9 日間
- ・会 場 高田公園オーレンプラザ…洋画・版画、写真部門
ミューゼ雪小町 …日本画、彫刻・立体造形、工芸・グラフィックデザイン、書道部門
- ・作品数 317 点 (うち入選数 313 点)
- ・部門別の出品者数及び作品数

区 分	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度	
	出品者数 (人)	作品数 (点)	出品者数 (人)	作品数 (点)	出品者数 (人)	作品数 (点)
日本画	9	10	9	9	13	14
洋画・版画	107	119	103	112	109	113
彫刻・立体造形	13	14	6	7	7	7
工芸・グラフィックデザイン	20	22	15	16	18	22
書道	52	53	57	61	44	47
写真	87	122	97	135	81	114
合 計	288	340	287	340	272	317

・入場者数

区 分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
入場者数	6,584 人	4,975 人	4,373 人

※平成 30 年度 会場別入場者数

(高田公園オーレンプラザ 2,840 人、ミューゼ雪小町 1,533 人)

○目標達成状況

出品者数の減少により目標を達成することはできなかったが、市民に創作活動の成果発表の場と、芸術作品に触れる機会を提供することができた。



市展 (表彰式) の様子



市展 (作品鑑賞会) の様子

決算書 (P342～P343)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	美術展覧会事業		

【事業の成果】

- ・新潟県美術展覧会上越展の開催周知のため、FM-J「広報Jステーション」での情報提供及び総合事務所での入場券の販売や防災行政無線による放送を継続して実施し、入場者数は前年度比微減となったが、県内の優れた芸術作品を鑑賞できる機会を提供することができた。
- ・上越市美術展覧会の開催により、美術・芸術活動を行っている方々の成果を発表する場を提供することができた。また、芸術が身近なものとなるよう市民が気軽に鑑賞できる機会を提供するため、引き続き鉄道の中吊りポスターの掲示を行った。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・新潟県美術展覧会上越展に多くの市民から来場いただくため、周知方法を検討するとともに、引き続き、区総合事務所及び主管の新潟日報社と連携して広報活動を行っていく必要がある。
- ・上越市美術展覧会の入場者数の減少について、市展は会場ごとに入場者をカウントしていることから、重複した集計となっており、平成 29 年度の 3 会場（ミュゼ雪小町、旧第四銀行、市民プラザ）から 2 会場となった平成 30 年度は、入場者数を単純に比較はできないが、今後も周知を徹底する必要がある。

【執行残額について】

○事業費節減 583

- ・市展関係委託料 81（市展の会場数を 3 会場から 2 会場に見直したことによる）
- ・報酬、旅費 269（市展の会場数を 3 会場から 2 会場に見直したことによる）
- ・印刷製本費 233（市展の発注仕様の見直しによる）

○その他 261

- ・賞賜金 131（市展の入賞数が想定より少なかったことによる）
- ・報酬、旅費 101（県展の会場準備・撤収等作業が減ったことによる）
- ・需用費ほか 29

(単位：千円)

決算書 (P342～P343)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	上越清里星のふるさと館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
15,731	15,325				1,903 (使用料、財産収入、 諸収入)	13,422
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	406		68	84	254	

【目的】

- ・天体観測及び天文に関する資料の展示等を通じて環境や自然の大切さを学ぶ機会を提供する。
- ・体験学習を通じて、生涯学習の振興と青少年の健全育成に寄与する。

平成 30 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○平成 30 年度目標

- ・プラネタリウムのデジタル化によりドーム演出を大きく変えた表現力をいかして、上越地域の天文教育の拠点にふさわしい、興味を高めるサービスを提供する。
- ・入館者数：7,000 人
(平成 27 年度：6,080 人、平成 28 年度：6,057 人、平成 29 年度：7,352 人)
※平成 29 年度はプラネタリウムデジタル化記念イベントで入館した 1,144 人を含む。

○実施内容、これまでの経過等

1 入館者数の推移

区 分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
			計画	実績
入館者数	6,057 人	7,352 人	7,000 人	6,728 人
(うちプラネタリウム利用者数)	4,039 人	5,818 人	4,690 人	4,505 人

2 自主事業等

- (1) 平成 30 年度は、開館 25 周年の節目として 15 年ぶりの火星大接近に合わせた特別なイベントを実施し、当館及び宇宙についての魅力を広く市民に周知した。実施した自主事業は、次のとおり

決算書 (P342～P343)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	上越清里星のふるさと館管理運営費		

自主事業名	計画回数	実施回数	入館者数
開館 25 周年記念星の感謝祭	1 日	1 日	219 人
観望会 (天体観測ドームを活用した夜間天体観測)	74 回	28 回	706 人
出前講座 (館以外での天体観測会等)	11 回	11 回	1,195 人
大人のための天文教室	8 回	8 回	131 人
天体写真に挑戦	9 回	9 回	93 人
親子星空教室	4 回	4 回	57 人
天体写真等展示企画展	3 回	3 回	—
星空バスツアー (上越科学館との連携事業)	6 回	6 回	163 人
謙信KIDS “星” “ほし” 受入れ	6 回	6 回	136 人

※天体写真等展示企画展は、館内の一部を使った展示のため、入館者数に含めない。

- (2) 小中学校等の要望に応え、プラネタリウムの学習投影を実施した。なお、平成 28 年度から始めたスクールバスの空き時間を活用した市立小学校の送迎は、9 校の利用があった。

保育園、幼稚園 14 園、460 人

小学校 18 校、643 人

中学校 6 校、362 人

高校・大学 9 校、111 人

- (3) 子ども会、公民館事業及び天文学会など、22 団体 515 人の団体利用があった。

3 施設管理における市の収支状況

区分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度		
			予 算	実 績	
①収入	使用料収入	1,363	1,485	1,352	1,660
	その他	172	207	213	243
	合計	1,535	1,692	1,565	1,903
②支出	施設維持管理費	21,247	14,792	15,731	15,325
	うち委託料	1,811	1,517	2,142	1,916
	その他	—	—	—	—
	合計	21,247	14,792	15,731	15,325
③公費投入額 (②-①)	19,712	13,100	14,166	13,422	
④利用者 1 人当たりの 公費投入額 (単位: 円)	3,254	1,782	2,024	1,995	

4 主な工事の内容

- ・プラネタリウム室空調設備交換工事 733

開館時 (平成 5 年) に設置したプラネタリウム室の空調設備 2 基のうち、経年劣化により稼働不能となった 1 基を更新

決算書 (P 342～P 343)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	上越清里星のふるさと館管理運営費		

○目標達成状況

- ・プラネタリウム上映において、天候によって観察することができなかった皆既月食や 15 年ぶりとなる火星大接近の仕組みなど、様々な天文現象をシミュレーション解説するなどし、天文教育の拠点にふさわしいサービスを提供することができた。
- ・入館者数は 6,728 人であり、目標の 7,000 人には達しなかった。

【事業の成果】

- ・来館者アンケートにおいて、93.8%の方から満足したとの回答を得ることができた。
- ・平成 26 年度から上越科学館と連携し実施している「星空バスツアー」は、全 6 回ともに定員を超える申込みがあり、天体観測や天文に関する魅力を伝える事業として定着し、自然科学に親しむ機会を提供することができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・デジタルプラネタリウムの活用を推進するため、職員のシステム操作及び解説技術の向上に努める必要がある。
- ・市内中心地から遠距離にあり他の目的での来館が困難な立地条件から、より一層の話題提供などの PR が必要である。
- ・入館者数が目標に達しなかった要因は、8 月中旬から 10 月にかけて、毎週発生した台風や雨天又は曇天が続き、観望会の実施ができない日が多かったことが影響したものとする。(8 月 10 日以降の観望会実施率は 16% (実施 5 回/計画 32 回))

【執行残額について】

- 事業未実施 68
 - ・報償金、費用弁償 (悪天候による夜間観望会中止)
- 入札差金 84
 - ・使用料及び賃貸借料 (プラネタリウム番組借上料ほか)
- その他 254
 - ・修繕料、郵便料ほか 53
 - ・委託料 201 (屋根雪除雪業務)

(単位：千円)

決算書 (P342～P345)	10款5項1目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	ユートピアくびき管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
84,526	83,616				9,429 (使用料、財産収入、 諸収入)	74,187
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	910					910

【目的】

多様な生涯学習活動の場を提供することにより、市民の文化・スポーツ・レクリエーション活動の振興を図り、魅力ある地域社会の形成に資するため、施設の維持管理を行う。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○実施内容、これまでの経過等

1 年間利用者数の推移

施設名	平成28年度		平成29年度		平成30年度		
	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数(人)	
						計画	実績
希望館	3,102	75,472	3,026	68,746	2,828	75,000	63,722
B&G海洋センター	1,464	36,501	1,499	31,592	1,407	35,000	32,311
艇庫	24	311	20	335	24	300	411
くびき球場	210	6,679	201	7,893	183	7,000	6,709
テニスコート	58	223	47	225	36	100	103
ふれあいグラウンド	487	22,877	480	23,928	542	25,000	25,274
中央広場	26	17,883	21	10,670	27	19,000	12,617
海洋公園	-	-	-	-	-	-	-
駐車場等屋外 共有スペース	19	8,070	31	3,020	46	8,500	5,030
いきいきコート	447	7,825	445	7,169	433	8,000	6,568
ゲートボールコート	0	0	4	76	5	100	91
合計	5,837	175,841	5,774	153,654	5,531	178,000	152,836

※海洋公園は、利用承認を得る必要がない施設のため、利用件数及び利用者数に含めない。

決算書 (P342～P345)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	ユートピアくびき管理運営費		

2 施設管理における市の収支状況

区分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度		
			予 算	実 績	
①収入	使用料収入	9,168	9,074	8,990	9,031
	その他	110	436	439	397
	合計	9,278	9,510	9,429	9,428
②支出	施設維持管理費	80,255	86,425	83,554	83,615
	うち委託料	11,042	11,421	11,711	11,338
	その他	-	-	-	-
	合計	80,255	86,425	83,554	83,615
③公費投入額 (②-①)	70,977	76,915	74,125	74,187	
④利用者 1 人当たりの 公費投入額 (単位:円)	404	501	416	485	

3 主な修繕・工事の内容

- ・希望館
多目的ホール吊物ワイヤー交換修繕 950、ロビー照明修繕 383、エレベーター機能維持修繕 750、風呂薬液注入装置修繕 104、移動観覧席修繕 100、コンクリートブロック塀改修工事 972
- ・B & G 海洋センター ジャグジー給水弁修繕 27
- ・くびき球場 得点板修繕 956
- ・ふれあいグラウンド 人工芝修繕 226

【事業の成果】

- ・市民の多様なニーズにあわせ、文化・スポーツ・レクリエーション活動の場を提供することができた。
- ・市の各種事業のほか、市民による自主的な活動の場として、生涯学習や生涯スポーツ、イベント等に利用された。
- ・上越圏域を対象とした集会等にも利用され、交流の場として活用された。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

利用者が安全・安心に利用できるように、施設や設備の改修・更新に努めるとともに、建設から 27 年以上が経過している施設の適切な管理運営を図る必要がある。

【執行残額について】

- その他 910
 - ・報酬、費用弁償等 201 (非常勤一般職の勤務実績による)
 - ・消耗品費、備品修繕費、複写機使用料ほか 709

(単位：千円)

決算書 (P344～P345)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	はーとぴあ中郷管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
17,084	16,122				843 (使用料、財産収入、 諸収入)	15,279
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	962				962	

【目的】

市民の教養と文化の向上及び生涯学習の振興を図り、魅力ある地域社会の形成に資するため、施設の管理運営を行う。

平成 30 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○実施内容、これまでの経過等

1 年間利用者数の推移

区分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
			計画	実績
利用件数	430 件	455 件	500 件	414 件
利用者数	10,246 人	18,806 人	10,000 人	13,364 人

2 施設管理における市の収支状況

区分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度		
			予算	実績	
①収入	使用料収入	588	972	588	684
	その他	37	213	160	159
	合計	625	1,185	748	843
②支出	施設維持管理費	16,256	17,781	17,084	16,122
	うち委託料	6,095	6,845	7,137	6,683
	その他	-	-	-	-
	合計	16,256	17,781	17,084	16,122
③公費投入額 (②-①)	15,631	16,596	16,336	15,279	
④利用者 1 人当たりの 公費投入額 (単位：円)	1,526	882	1,634	1,143	

決算書 (P344～P345)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	はーとぴあ中郷管理運営費		

3 主な修繕の内容

- ・排煙窓修繕 346 ・エレベータ機能維持修繕 523 ・誘導灯交換修繕 164
- ・非常照明器具バッテリー交換 214 ・事務室エアコン修繕 130

【事業の成果】

- ・公民館事業など市の各種事業の会場として利用したほか、市民による自主的な活動、レクリエーション活動の場として、生涯学習や生涯スポーツ、イベントや集会等に利用された。
- ・地域住民のほか、隣接する地域の方々の利用もあり、交流の場として活用された。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・区外、市外の利用者から「はーとぴあ中郷でなければならない」と選ばれる施設にもなっていることから、リピーターとして利用していただけるよう努める。また、関連団体等への施設紹介を引き続き依頼する。
- ・地域住民から積極的に利用してもらうため、公民館活動等を通じて自主グループとなった団体の会員や、各種団体の生涯学習活動による利用の働き掛けを継続する。

【執行残額について】

○その他 962

- ・施設管理委託料 454 (受付事務、周辺維持管理業務等の実績による)
- ・光熱水費 459
- ・使用料及び賃借料 17
- ・消耗品、修繕料ほか 32

(単位：千円)

決算書 (P344～P347)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	生涯学習センター管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
27,642	26,761				1,225 (使用料、諸収入)	25,536
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	881			25	856	

【目的】

地域における生涯学習活動及び生涯スポーツ活動を促進するため、生涯学習センターの管理運営を行う。

平成 30 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○実施内容、これまでの経過等

地域生涯学習センター管理運営の状況

・施設の概要(12施設)

(1) 地域生涯学習センター

施設名	所在地	構造等	施設内容	開館時間・休館日
中川	安塚区 坊金 1066 番地 2	鉄筋コンクリート造 延床面積 1,242.87 m ²	会議室、研修室、 ふれあい交流室	午前 8 時 30 分～ 午後 10 時 休館日：なし
伏野	安塚区 真萩平 2793 番地	鉄筋コンクリート造 延床面積 376.0 m ²	調理実習室、研修 室	
菱里	安塚区 円平坊 941 番地	鉄骨造 延床面積 2,800.0 m ²	体育館、会議室、 視聴覚室	
船倉	安塚区 上船倉 804 番地	木造、鉄骨造、鉄筋 コンクリート造 延床面積 1,378.0 m ²	体育館、コミュニ ティ室、体験室	
須川	安塚区 須川 9005 番地	鉄骨造 延床面積 545.0 m ²	体育館	

決算書 (P344～P347)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	生涯学習センター管理運営費		

施設名	所在地	構造等	施設内容	開館時間・休館日
大島	大島区 仁上 5607 番地	鉄骨造、鉄筋コンクリート造 延床面積 700.77 m ²	ゲートボールコート、 研修室	午前 8 時 30 分～ 午後 10 時 休館日：なし
吉川旭	吉川区 梶 257 番地 2	鉄骨造、鉄筋コンクリート造 延床面積 709.0 m ²	体育館	
源	吉川区 山直海 801 番地 1	鉄骨造、鉄筋コンクリート造 延床面積 2,027.0 m ²	会議室、工作室、体育館	
片貝	中郷区 片貝 92 番地 2	鉄骨造、鉄筋コンクリート造 延床面積 794.34 m ²	体育館	
榑池	清里区 棚田 525 番地 1	鉄骨造、鉄筋コンクリート造 延床面積 2,616.21 m ²	体育館、会議室	
下名立	名立区 杉野瀬 9 番地	鉄骨造 延床面積 562.0 m ²	体育館	
不動	名立区 瀬戸 722 番地	鉄骨造、鉄筋コンクリート造、木造 延床面積 1,422.0 m ²	体育館、ふれあいルーム、 会議室、体験交流室、 調理実習室、第 1 研修室、 第 2 研修室	

※延床面積は、附属建物の床面積を含む。

(2) 片貝縄文資料館

所在地	構造等	施設内容	開館時間・休館日
中郷区 片貝 92 番地 2	鉄筋コンクリート造 延床面積 2,156.62 m ²	常設展示室、学習室、 実習室、研修室	午前 9 時～午後 5 時 休館日：火曜日、その日が休日 の場合はその翌日 12 月 29 日～翌年 1 月 3 日
		会議室、多目的室、調 理実習室ほか	午前 9 時～午後 10 時 休館日：火曜日、その日が休日 の場合はその翌日 12 月 29 日～翌年 1 月 3 日

※建物は、片貝地域生涯学習センターと一体管理

決算書 (P344~P347)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	生涯学習センター管理運営費		

・利用者数等

(1) 地域生涯学習センター

区名	施設名	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		
		利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数 (人)	
							計画	実績
安塚区	中川	76	1,032	72	1,065	74	1,085	1,076
	伏野	41	716	38	716	38	760	920
	菱里	35	2,030	10	1,112	16	1,686	1,060
	船倉	26	510	28	427	17	454	340
	須川	41	246	44	251	40	255	266
	小計	219	4,534	192	3,571	185	4,240	3,662
大島区	大島	83	1,452	60	1,275	67	1,662	1,148
吉川区	吉川旭	111	2,810	67	1,658	88	2,200	1,318
	源	12	851	4	427	53	300	1,788
	小計	123	3,661	71	2,085	141	2,500	3,106
中郷区	片貝	43	1,782	30	1,701	44	1,900	1,912
清里区	櫛池	8	1,783	32	1,294	36	1,399	1,045
名立区	下名立	46	455	43	380	3	467	77
	不動	336	6,863	328	5,612	272	6,091	2,498
	小計	382	7,318	371	5,992	275	6,558	2,575
合計		858	20,530	756	15,918	748	18,259	13,448

(2) 片貝縄文資料館

区分	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		
	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数 (人)	
						計画	実績
部屋利用	68	2,182	62	1,861	68	2,000	2,315
資料館		979		1,203		1,000	1,385
合計		3,161		3,064		3,000	3,700

決算書 (P344～P347)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	生涯学習センター管理運営費		

・収支状況

(1) 安塚区

区 分		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料収入	131	111	108	114
	その他	750	630	630	570
	合計	881	741	738	684
②支出	施設維持管理費	7,604	8,330	14,213	13,762
	うち委託料	1,774	1,346	1,775	1,764
	その他	-	-	-	-
	合計	7,604	8,330	14,213	13,762
③公費投入額 (②-①)		6,723	7,589	13,475	13,078
④利用者 1 人当たりの 公費投入額 (単位: 円)		1,483	2,125	3,178	3,571

(2) 大島区

区 分		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料収入	91	63	93	72
	その他	9	9	9	9
	合計	100	72	102	81
②支出	施設維持管理費	763	805	952	855
	うち委託料	463	555	556	555
	その他	-	-	-	-
	合計	763	805	952	855
③公費投入額 (②-①)		663	733	850	774
④利用者 1 人当たりの 公費投入額 (単位: 円)		457	575	511	674

(3) 吉川区

区 分		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料収入	9	2	8	1
	その他	70	146	70	182
	合計	79	148	78	183
②支出	施設維持管理費	2,464	2,937	3,259	3,253
	うち委託料	171	305	277	276
	その他	-	-	-	-
	合計	2,464	2,937	3,259	3,253
③公費投入額 (②-①)		2,385	2,789	3,181	3,070
④利用者 1 人当たりの 公費投入額 (単位: 円)		651	1,338	1,272	988

決算書 (P344～P347)	10款5項1目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	生涯学習センター管理運営費		

(4) 中郷区

区 分		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料収入	149	113	130	147
	その他	-	-	0	0
	合計	149	113	130	147
②支出	施設維持管理費	4,683	4,094	4,292	4,212
	うち委託料	1,291	1,528	1,309	1,305
	その他	-	-	-	-
	合計	4,683	4,094	4,292	4,212
③公費投入額 (②-①)		4,534	3,981	4,162	4,065
④利用者1人当たりの 公費投入額 (単位:円)		917	835	849	724

※片貝縄文資料館の利用者数等を算定に含む。

(5) 清里区

区 分		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料収入	-	86	48	86
	その他	-	-	-	-
	合計	-	86	48	86
②支出	施設維持管理費	1,164	1,790	1,416	1,317
	うち委託料	403	413	446	421
	その他	-	-	-	-
	合計	1,164	1,790	1,416	1,317
③公費投入額 (②-①)		1,164	1,704	1,368	1,231
④利用者1人当たりの 公費投入額 (単位:円)		653	1,317	978	1,178

(6) 名立区

区 分		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料収入	65	77	60	44
	その他	-	-	-	-
	合計	65	77	60	44
②支出	施設維持管理費	2,794	3,484	3,435	3,362
	うち委託料	437	743	963	931
	その他	-	-	-	-
	合計	2,794	3,484	3,435	3,362
③公費投入額 (②-①)		2,729	3,407	3,375	3,318
④利用者1人当たりの 公費投入額 (単位:円)		373	569	515	1,289

決算書 (P344～P347)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	生涯学習センター管理運営費		

・主な施設の整備等内容

区名	施設整備等の内容 (業務委託・工事・修繕)
安塚区	○機械警備委託 (中川 78)、貯水槽清掃業務委託 (菱里 24)、浄化槽維持管理業務委託 (中川 41、伏野 132、菱里 130、船倉 52)、消防用設備点検業務委託 (中川 38、伏野 54、菱里 97、船倉 36、須川 25)、施設管理業務委託 (中川 180、伏野 144、船倉 142、須川 172) ○非常用照明設備設置工事 (菱里 2,862、中川 2,419、須川 1,004、伏野 324) ○舗装修繕 (船倉 202)、雪囲い修繕 (菱里 11)、玄関鍵修繕 (須川 19)、火災報知器修繕 (船倉 55)
大島区	○浄化槽清掃業務委託 (152)、消防設備点検業務委託 (20)、清掃業務委託 (30)、除雪業務委託 (354) ○浄化槽汚水樹交換修繕 (6)、ガラス修繕 (10)、破風板修繕 (19)、玄関アルミサッシ引違錠交換 (13)
吉川区	○消防設備点検業務委託 (30)、草刈等作業業務委託 (旭 105)、浄化槽管理業務委託 (源 141) ○男子トイレ洋式化改修工事 (旭 326) ○駐車場舗装修繕 (源 324)
中郷区	○機械警備委託 (89)、施設維持管理委託 (314)、消防設備点検業務委託 (421)、地下タンク定期点検 (49)、熱風炉保守点検 (270)、自家用電気工作物保安管理 (123)、椅子式階段昇降機保安点検 (39) ○除雪機点検・修繕 (44)、チェーンソー修繕 (11)、トイレ修繕 (146)、水道漏水修繕 (25)、煙感知器交換 (29)、屋内消火栓装置修繕 (89)
清里区	○貯水槽清掃等業務委託 (43)、水道滅菌保守業務委託 (86)、環境整備業務委託 (173)、消防用設備等維持点検業務委託 (102) ○除雪機点検・修繕 (17)
名立区	○施設維持管理業務委託 (不動 254)、消防用設備保守点検業務委託 (下名立 49、不動 134)、草刈等業務委託 (下名立 38)、冬囲い板作製業務委託 (不動 125)、屋根雪等処理業務委託 (不動 332) ○誘導灯非常用バッテリー交換修繕 (不動 21)、非常警報設備非常用バッテリー交換修繕 (下名立 21)

【事業の成果】

コミュニティ圏域における地域に根差した集会や会議等の場を確保するとともに、生涯学習及び生涯スポーツ活動に利用され、身近な地域での文化の振興や健康の増進を図ることができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

施設の老朽化が進んでいるため、安全かつ快適に利用いただけるよう適切に維持管理を行うとともに、利用する地域住民と今後の施設の在り方について丁寧に協議を重ねていく必要がある。

【執行残額について】

○入札差金	25	
・委託料		
○その他	856	
・使用料及び賃借料	253	
・報酬、共済費及び旅費	141	
・委託料ほか	462	

(単位：千円)

決算書 (P346～P347)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	野外活動施設管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
2,012	2,012					2,012
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	0				0	

【目的】

青少年の健全育成を推進するため、大潟野外活動施設の適切な管理運営を行う。

平成 30 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

＜施設概要＞

所在地	大潟区四ツ屋浜 580 番地 1 (敷地面積：24,000 m ²)
主要設備	キャンプ場、トリム遊具 18 基、ジョギング道路、中央管理棟、東屋
開設	昭和 60 年 4 月
開場期間	4 月 1 日から 10 月 31 日まで (休場日：火曜日)

○実施内容、これまでの経過等

＜指定管理の状況＞

導入開始年度	平成 18 年度
指定管理者名	大潟観光協会
指定期間	平成 28 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

○施設の管理実績

・利用者数

区分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
			計画	実績
利用者数	14,745 人	11,539 人	8,000 人	12,899 人

決算書 (P346～P347)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	野外活動施設管理運営費		

・指定管理者制度導入施設における市の収支状況

区 分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
			予 算	実 績
① 収入	—	—	—	—
② 支出	修繕料	—	—	—
	役務費	9	9	9
	委託料	2,003	2,003	2,003
	合 計	2,012	2,012	2,012
③ 公費投入額 (②-①)	2,012	2,012	2,012	2,012
④ 利用者 1 人当たりの 公費投入額 (単位: 円)	136	174	252	156

○施設管理者制度の導入効果等

・指定管理料の増減額

前指定期間の指定管理料平均額 (決算ベース)	①	2,221
平成 30 年度の指定管理料 (委託料)	②	2,003
指定管理料の増減額	①-②	218

※管理人の勤務時間を精査したため、指定管理料が 218 千円の減となった。

(参考) 指定管理者制度導入施設における指定管理者の収支状況

区 分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度		
			計 画	実 績	
① 収入	利用料金収入	82	110	78	97
	管理運営委託料	2,003	2,003	2,003	2,003
	その他	—	—	—	—
② 支出	2,009	2,037	2,081	2,044	
差 引 (①-②)	76	76	0	56	

【事業の成果】

- ・指定管理者による日常点検及び簡易修繕などにより、利用者の安全安心と施設の適切な維持管理を実施したことで、事故の発生件数は 0 件だった。
- ・学校の校外活動や親子の野外活動にトリム遊具が利用され、青少年の健全育成に寄与した。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

誰でも気軽に利用できる状態を維持するため、トリム遊具の日常的な点検を行う中で安全な利用の確保を図る。

(単位：千円)

決算書 (P346～P347)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	七ヶ地区コミュニティセンター管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
1,173	906				273 (使用料、謝収)	633
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	267			230	37	

【目的】

集会、学習、レクリエーション活動などの多目的な活動の場を提供し、地域住民の生活文化の向上に寄与するため、施設の管理運営を行う。

平成 30 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○実施内容、これまでの経過等

1 施設の概要

所在地	柿崎区金谷 428 番地 1
構造等	木造 2 階建て 延床面積 242.58 m ²
施設内容	会議室(和室)、集会室(ステージ付)、調理実習室
利用時間	午前 8 時 30 分～午後 10 時
休館日	12 月 29 日～翌年 1 月 3 日

2 年間利用者数の推移

区分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
			計画	実績
利用件数	360 件	368 件	400 件	369 件
利用者数	4,263 人	3,973 人	4,300 人	4,011 人

※平成 30 年度の計画値は、過去 3 年度間の実績平均値から算出

決算書 (P346～P347)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	七ヶ地区コミュニティセンター管理運営費		

3 施設管理における市の収支状況

区分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度		
			予算	実績	
①収入	使用料収入	287	273	300	263
	その他	9	10	9	10
	合計	296	283	309	273
②支出	施設維持管理費	1,691	574	1,173	906
	うち委託料	141	229	144	143
	その他	-	-	-	-
	合計	1,691	574	1,173	906
③公費投入額 (②-①)	1,395	291	864	633	
④利用者 1 人当たりの 公費投入額 (単位:円)	327	73	201	158	

4 主な修繕・工事の内容

- ・ 2 階集会室床修繕 324
- ・ 浄化槽ブローラー修繕 14
- ・ 階段手すり設置工事 63

【事業の成果】

修繕や工事のほか適切な施設管理を行ったことから、利用者が安全安心かつ快適に活動することができ、地域に根差した多様な活動の場を提供することができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

市民が安心して当該施設を利用できるよう、引き続き計画的な修繕等を行い、施設の維持管理を図っていく必要がある。

【執行残額について】

- 入札差金 230
 - ・ 修繕料 226
 - ・ 工事請負費 4
- その他 37
 - ・ 光熱水費 21
 - ・ 燃料費 9
 - ・ 報償費ほか 7

(単位：千円)

決算書 (P346～P347)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	上越科学館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
65,810	65,510				76 (財源収入)	65,434
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	300			299	1	

【目的】

上越地域における科学的な知識の普及や科学に親しむ習慣の形成に寄与するため、上越科学館の管理運営を行う。

平成 30 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○平成 30 年度目標

利用者数 94,000 人

○実施内容、これまでの経過等

- ・指定管理者による質の高い事業、サービスを提供するため、年間を通して自然観察教室やサイエンスショー、科学工作教室を開催したほか、学校などに出向いて出前授業も展開した。また、青少年を対象とした発明工夫・模型工作展や科学の祭典などのイベントを実施した。
- ・夏の特別展では「4Dトリックアート展」を、冬期には「ミニ恐竜展」を開催するなど、指定管理者が自主的に事業に取り組んだ。

※夏の特別展：31,004 人（42 日間）、ミニ恐竜展：4,880 人（17 日間）

<指定管理の状況>

導入開始年度	平成 30 年度
指定管理者名	新東産業株式会社
指定期間	平成 30 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日

○施設の管理実績

・利用者数

区分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
			計画	実績
利用者数	101,516 人	90,027 人	99,000 人	108,494 人

決算書 (P346～P347)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	上越科学館管理運営費		

・指定管理者制度導入施設における市の収支状況

区 分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度		
			予 算	実 績	
①収入	24,474	21,334	76	76	
②支出	修繕料	3,892	1,207	268	416
	委託料	47,939	47,951	63,300	63,300
	使用料及び賃借料	1,301	1,298	2,093	1,794
	その他施設維持管理費	12,971	11,276	-	-
	合 計	66,103	61,732	65,661	65,510
③公費投入額 (②-①)	41,629	40,398	65,585	65,434	
④利用者 1 人当たりの公費投入額 (単位: 円)	410	449	662	603	

○指定管理者制度の導入効果等

・経費縮減効果

導入前の過去 3 か年の一般財源負担平均額 (決算ベース)	①	55,652
平成 30 年度の指定管理料 (委託料)	②	47,000
経費縮減効果	①-②	8,652

(参考) 指定管理者制度導入施設における指定管理者の収支状況

区 分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
			計 画	実 績
①収入	利用料金収入	-	23,013	25,198
	管理運営委託料	-	47,000	47,000
	その他	-	2,597	3,587
②支出	-	-	72,610	79,439
差 引 (①-②)	-	-	0	△3,654

○目標達成状況

利用者数は 108,494 人であり、目標の 99,000 人を 9.6% 上回った。

【事業の成果】

- サイエンスプレイパークの遊具点検を年 3 回の定期点検のほか、日常点検を 2～3 回/月 (32 回/年) に増やすとともに、自主的に救命講習及び避難訓練を実施し、安全安心な施設運営ができた。
- 自主事業を幅広く周知するため、広報上越への掲載のほか、マスコミへのプレスリリースやホームページの更新、SNS での情報発信をきめ細かに行い、積極的に利用促進を図った。
- 幅広い世代の誘客を図るため、市内の幼稚園、保育園、小中学校のほか、町内会や老人クラブ連合会に出向いて営業活動を行い、多様な学習ニーズを把握した。
- 「シニア入館料」を新たに設定し、地域の組織や団体及び高齢者層の誘客を図った。
- 隣県の旅行代理店を回り誘客宣伝活動を行ったほか、営業活動では、顧客満足度の向上を図るため、各種団体や宿泊施設へプレゼンテーション資料を使い PR を行った。

決算書 (P346～P347)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	上越科学館管理運営費		

- ・親子と一緒に科学工作を楽しみ、科学に親しめる「キッズコーナー」を新設して、学びのきっかけづくりに取り組み、青少年健全育成及び家庭教育支援の場を提供できた。
- ・様々な科学の話題を気軽に語らう「サイエンスカフェ」を実施し、参加者同士が科学への理解を深め、科学に親しむ習慣の形成に努めた。
- ・リージョンプラザ上越との利用促進では、お得な共通券を発行し、来館者の利便性向上に努めた。

これら、新たな取組や幅広い活動による様々な視点における改善を行うとともに、来館者のニーズを的確に捉えた特別展や自主事業を展開した結果、来館者数が約 1 割増加して 10 万人に達し、指定管理制度の導入初年度に効果が表れた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

教育普及活動を視点とした自然科学教育の拠点の役割を更に高めるため、きめ細かな情報発信と顧客満足度の向上を図るための営業活動を根強く展開し、魅力的な施設運営を一層進める必要がある。

【執行残額について】

- 入札差金 299
 - ・使用料及び賃借料
- その他 1
 - ・修繕料ほか

(単位：千円)

決算書 (P346～P349)	10 款 5 項 2 目 公民館費	所管課等	社会教育課
事業名	公民館事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
60,127	56,759				2,374 (財産収入、雑収入)	54,385
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	3,368		99		3,269	

【目的】

「学びの輪が 人をはぐくみ 地域を支えるまち」を社会教育の目指す姿として定め、学びを通じた人づくり、地域づくりを推進する。

平成 30 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

公民館事業 54,377

○平成 30 年度目標

- ・全ての地区公民館で、社会教育の 5 つの事業の柱のうち「学びのきっかけづくり」・「未来を支える人づくり」に向けた事業を実施する。
- ・上記に該当する 128 事業の受講者総数：2,000 人

○実施内容、これまでの経過等

<事業の実施状況> 5 つの事業の柱：318 事業、受講者延べ人数 39,974 人

(このうち、目標に掲げた 2 つの事業の柱：118 事業、受講者数 7,629 人)

学びのきっかけづくり	目的	地域住民のニーズに応じた趣味や教養講座等から個人の学びの意欲を高めるとともに、交流の輪を広げる。
	事業	趣味・教養講座、体育・レクリエーション講座 75 事業
	受講者延べ人数	3,593 人
未来を支える人づくり	目的	地域資源及び地域の人材を活用した体験活動や交流等を通じて、子どもたちの豊かな心を育む。
	事業	青少年教育活動事業、キッズフェスタ事業 43 事業
	受講者延べ人数	4,036 人
育ち合い、支え合う家庭環境づくり	目的	子どもが健やかに育つよう家庭の教育力向上を図るとともに、子どもの居場所づくりに努める。
	事業	家庭教育支援講座、親子活動講座、夏休み☆子どもつどいのひろば 35 事業
	受講者延べ人数	2,277 人

決算書 (P346～P349)	10 款 5 項 2 目 公民館費	所管課等	社会教育課
事業名	公民館事業		

地域・現代課題に対応した地域づくり	目的	各地域自治区における地域の課題や情報モラル等の現代課題を学習することにより、課題解決に向けた意識を高める。
	事業	元気の出るふるさと講座、地域・現代課題講座 32 事業
	受講者延べ人数	1,957 人
行動する人への支援	目的	これから行動しようとする人や自主的に活動している団体、個人への活動支援を通じて、活動機会の提供及び活動の維持・継続を図る。
	事業	分館活動、ボランティア活動、団体、サークル及び地域活動への支援、生涯学習フェスティバルなど 133 事業
	受講者延べ人数	28,111 人

○目標達成状況

全ての地区公民館で目標に掲げた事業を実施し、受講者数は7,629人となり、目標を達成することができた。



「発酵の町 上越を学ぶ」
(和田地区公民館)



「こどもチャレンジ教室」
(直江津地区公民館)

決算書 (P346～P349)	10款5項2目 公民館費	所管課等	社会教育課
事業名	公民館事業		

中央公民館事業 1,257

○実施内容、これまでの経過等

<事業の実施状況>

区分	イベント名 (参加者数)	会場	イベント概要及び内容
見る	工藤重典フルート・クリニック&リサイタル (クリニック17人、リサイタル432人)	高田公園オーレンプラザ	概要：三井住友海上文化財団の助成を活用し、一流の音楽家による音楽指導と演奏会を開催した。 内容：フルートの演奏指導とコンサート
	越後上越和太鼓まつり “一打専心” (800人)	高田公園オーレンプラザ	概要：市内の6つの和太鼓団体による合同演奏イベントの開催を支援した。 内容：演奏
学ぶ	文化講演会 (206人)	ユートピアくびき希望館	概要：県主催の「にいがた連携公開講座」を活用し、学習要望に対応した分野の講演会を開催した。 内容：講演
	新潟県立歴史博物館事業出前講座 (33人)	高田公園オーレンプラザ	概要：県立歴史博物館主催の「出前講座」を活用し、県内の食文化や特色を学ぶ事業を開催した。 内容：講演
	上越市・糸魚川市公民館連携事業歴史講座 (延べ38人)	直江津学びの交流館など	概要：糸魚川市公民館と連携し、上越地区の「北前船」の歴史や文化を学ぶ事業を開催した。 内容：講演、現地学習 (全3回)
	出前講座 (20人)	キューピットバレイ	概要：健康維持について学ぶ出前事業を開催した。 内容：講演
	歴史講演会 (358人)	高田公園オーレンプラザ	概要：地域の活性化や未来を担う人材の育成につなげる歴史講演会を開催した。 内容：講演
	オーレン講座 (延べ118人)	高田公園オーレンプラザ	概要：調理実習室や工作室、創作室を活用した事業を開催した。 内容：料理教室 (全4回)、陶芸教室 (全3回)、工作教室 (全3回)
集う	上越市公民館のつどい (121人)	ユートピアくびき希望館	概要：上越地域の公民館関係者が社会教育活動の実践成果を持ち寄り、今後の社会教育及び公民館活動の推進に向けた研修会を開催した。 内容：講演、事例発表、意見交換会
	市民団体の協働・育成事業 (延べ1,652人)	高田公園オーレンプラザ	概要：音楽団体の活動を支援するとともに、施設のにぎわいづくりのため、互いに協力し合い文化活動の振興を図った。 内容：オープンリハーサル、クリスマスコンサート、定期利用団体の成果発表会「アートフェス・オーレ」

決算書 (P346～P349)	10款5項2目 公民館費	所管課等	社会教育課
事業名	公民館事業		

公民館図書室事業 1,125

○実施内容、これまでの経過等

- ・高田図書館分室（11分室）を平成28年度から公民館図書室として位置付け、公民館利用者及び地域の団体等の要望を踏まえ、図書室の利用促進を図っている。
- ・公民館図書室窓口で予約・リクエストサービスや図書館が所蔵する本の受取・返却サービスを継続して実施し、身近な公民館で本を手にする機会を提供するとともに、公民館利用者の活動に資する図書資料の充実を図るなど、読書啓発活動の推進に努めた。

【事業の成果】

- ・公民館事業の実施によって、学びのきっかけとなる場を提供し、交流を深める機会を生み、人を育み地域を支えるまちづくりに向けた支援ができた。
- ・地域が直面する課題や特徴をいかしたまちづくりについて、考え学び合い、それぞれの地域課題の解決に向けた取組を進める過程の中で、人づくり、地域づくりを支援する「元気の出るふるさと講座」（1講座5回コース/年、3年連続講座）を12地域自治区で開催し、延べ834人が参加した。
- ・元気の出るふるさと講座では、地域の魅力や課題を学ぶとともに、地域の魅力を発信するマップづくりやガイド体験などの実践的な活動を通じて、地域を担う人づくりに向けた取組を行うことができた。
- ・中央公民館事業では、上越市・妙高市・糸魚川市の公民館関係者が一堂に会して活動の実践発表や意見交換により交流を深める「公民館のつどい」を開催し、上越地域における公民館活動の推進を図った。また、県主催の「にいがた連携公開講座」を活用した文化講演会や県立歴史博物館主催の「出前講座」を活用した事業を開催し、市民の学習ニーズを踏まえた関心の高い学習内容を提供することができた。オーレンプラザにおいては、ホール施設を中心に市民の文化活動の広がりや賑わい創出に向けた取組を行い、市民交流の促進を図ることができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

各地域の特性や実情、ニーズを的確に捉えた事業を展開するため、公民館運営委員や地域で活動する団体と協力しながら、生涯学習の推進や人づくり、地域づくりに結び付く事業を実施する必要がある。

【執行残額について】

- 事業未実施 99
 - ・群馬県板倉町交流会補助金 90
 - ・交流会・友好協会負担金 9
- その他 3,269
 - ・報償費 1,231
 - ・共済費 835
 - ・費用弁償、報酬ほか 1,203

(単位：千円)

決算書 (P348～P349)	10款5項2目 公民館費	所管課等	社会教育課
事業名	公民館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
132,329	126,517				9,392 (使用料、財源収入 課収入)	117,125
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	5,812			1,860	3,952	

【目的】

地域活動の活性を促すため、公民館施設の適切な管理運営を行う。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○実施内容、これまでの経過等

市民の生涯学習活動の実践の場として、また、地域の社会教育活動の拠点施設として、公民館施設の維持管理を行い、年間約24万人が利用した。

○施設の管理実績

・利用件数、利用者数

区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		
	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数(人)	
						計画	実績
高田地区公民館	1,127	16,465	466	6,682	-		-
新道地区公民館	653	4,634	585	3,821	614	5,000	4,510
金谷地区公民館	973	9,695	1,085	10,297	889	9,500	9,808
和田地区公民館	266	2,592	221	2,533	472	3,000	3,083
津有地区公民館	979	11,588	1,222	13,542	1,219	12,000	15,910
高士地区公民館	648	10,321	560	7,635	501	10,000	10,346
三郷地区公民館	214	2,930	251	3,572	253	2,500	3,691
諏訪地区公民館	439	6,053	452	6,085	383	6,000	5,674
有田地区公民館 (カルチャーセンター)	3,751	74,478	3,628	68,855	3,248	76,500	72,392
保倉地区公民館	160	1,695	89	1,561	96	1,500	2,086
北諏訪地区公民館	301	3,519	303	3,179	282	3,500	3,165
谷浜・桑取地区公民館	251	4,406	244	4,617	650	6,000	5,265
桑取分館	69	739	128	1,412	134	1,000	1,399
計	9,831	149,115	9,234	133,791	8,741	136,500	137,329
13区分	8,081	159,935	8,121	133,318	8,257	133,605	102,836
合計	17,912	309,050	17,355	267,109	16,998	270,105	240,165

決算書 (P 348~P 349)	10 款 5 項 2 目 公民館費	所管課等	社会教育課
事業名	公民館管理運営費		

※高田地区公民館は平成 29 年 9 月 29 日に「市民交流施設高田公園オーレンプラザ」に移転したため、平成 29 年度は 9 月までの数値

※直江津地区公民館は、「直江津学びの交流館」に併設のため除外

※春日地区公民館は、「上越市春日謙信交流館」に併設のため除外

※八千浦地区公民館は、「上越市八千浦交流施設はまぐみ」に併設のため除外

・ 13 区分の内訳

区 分	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		
	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数 (人)	
						計 画	実 績
浦川原区	164	2,569	150	2,336	229	2,300	2,061
大 島 区	240	3,552	275	3,913	254	3,495	3,275
柿 崎 区	2,618	38,539	2,739	31,138	2,663	36,000	30,567
大 潟 区	663	6,085	747	6,857	735	6,000	7,033
頸 城 区	905	13,985	827	12,708	1,151	12,000	11,960
吉 川 区	657	19,588	581	13,953	618	13,700	10,336
板 倉 区	1,103	28,756	1,084	24,894	857	20,000	18,014
三 和 区	200	3,729	166	3,033	199	3,395	2,790
名 立 区	1,531	43,132	1,552	34,486	1,551	36,715	16,800
合 計	8,081	159,935	8,121	133,318	8,257	133,605	102,836

※安塚区、牧区、中郷区、清里区は、他の生涯学習施設や総合事務所等に併設のため除外

※頸城区は、5つの分館を集計（ユートピアくびきは併設のため除外）

※各区は分館利用件数、利用者数を含む。

・ 施設管理における市の収支状況

区 分		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料収入	8,238	7,816	7,597	7,459
	その他	1,218	6,639	1,598	1,933
	合計	9,456	14,455	9,195	9,392
②支出	施設維持管理費	107,819	134,333	132,329	126,517
	うち委託料	30,382	30,600	28,718	27,223
	その他	-	-	-	-
	合計	107,819	134,333	132,329	126,517
③公費投入額 (②-①)		98,363	119,879	123,134	117,124
④利用者 1 人当たりの 公費投入額 (単位：円)		318	449	456	488

決算書 (P 348～P 349)	10 款 5 項 2 目 公民館費	所管課等	社会教育課
事業名	公民館管理運営費		

【事業の成果】

教養の向上及び健康の増進につながる場を確保するため、適切な施設の維持管理に努め、実際に生活に即する学習活動の拠点となる身近な公民館において、多くの市民から利用され、生活文化の振興及び社会教育の推進が図れた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

地域住民に最も身近な集いの場、学習の場として、利用者が快適に利用できるよう、引き続き適切な維持管理を行っていく。

【執行残額について】

○入札差金	1,860	
・委託料		1,277
・使用料及び賃借料ほか		583
○その他	3,952	
・報酬、共済費及び旅費		2,678
・光熱水費ほか		1,274